

免疫チェックポイント阻害薬投与後に発症した大腸炎の臨床病理学的特徴  
に関する後ろ向き観察研究

◆研究の目的と概要◆

当院では、がんに対する治療として免疫チェックポイント阻害薬を投与した後に発症した大腸炎について、臨床経過や病理検査の結果を調べることによって、今後同様の患者さんの治療方針を決定する際に病理所見を役立てるようになることを目指し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2016年11月から、2021年10月までの間に、免疫チェックポイント阻害薬を投与され、かつその後に大腸内視鏡検査を受けられた方。

◆研究に使用される情報◆

年齢、性別、身長・体重、がんに対するこれまでの治療経過、内服薬の内容、大腸炎に関連する自覚症状、血液検査所見、腹部CT検査、上部・下部消化管内視鏡検査および生検所見、大腸炎に対して実施した治療の内容、その後の治療経過

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

- 
- \* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
  - \* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

消化器内科 研究責任者 池田 有希

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明